

議会だより

No. 78

令和7年2月10日

まがわ



栃木県那珂川町

テーマ(まなび)
中学生がみた議会

主な内容

12月定例会の結果	(2P~3P)
ここが聞きたい！ 一般質問(7人)	(4P~10P)
1月臨時会の結果	(11P)
高校生との意見交換会 ほか	(12P~17P)
議会・委員会のうごき	(18P~19P)
キラリ☆まちおこし・編集後記	(20P)

第7回議会 12月定例会

中学生が議会を傍聴



◆中学生の議会傍聴◆

12月4日(定例会2日目)に、主権者教育の一環で馬頭中学校と小川中学校の代表生徒13名が議場を訪れ、一般質問を傍聴しました。

中学生たちは、真剣な表情で傍聴席から議員と町執行部とのやりとりに耳を傾けました。

一般質問を傍聴した中学生の感想

- ◆町のことに對して、真剣で丁寧に議論している様子を見てとてもすごいと思った。これから変わっていく那珂川町が楽しみだと感じました。
- ◆議員の方が町民のことを考えていることが質問やそれに対する答えから伝わってきました。
- ◆町にはたくさんの課題があることが分かりました。私たち中学生に何かできることはないか考え、将来に生かせる対策を今のうちから考えていきたいと思いました。
- ◆那珂川町で自分が知らない間にもたくさんの政策がされていることが分かり、那珂川町の政治について興味を持つことができました。
- ◆私たちの知らない所で多くの方が関り考え、みな良い町へしようとしているところにとっても感動しました。
- ◆町のより良い未来を目指して具体的な解決策や対策案を出していてとても勉強になった。
- ◆広重美術館の存続や少子高齢化への具体的な政策を聞き、私たちの生活に深く関わっていることについて、真剣に議論をしている議員の方々に感動しました。
- ◆今回の体験を通して、議会に興味を持つことができました。 など

定例会

令和6年第7回那珂川町議会定例会は、12月3日に開会し、会期を5日までの3日間と定め、一般質問のほか、条例の一部改正、令和6年度補正予算の審議などを行いました。

今期定例会には、専決処分の承認を含む9議案が上程され、全ての議案が可決されました。

補正予算

◆一般会計補正予算(第5号)

(主員賛成 原案可決)

一般会計補正予算は、障害者福祉サービス利用料の上昇に伴う扶助費の増額をはじめ、小川放課後児童クラブの移転に向けた小川小学校コンピュータ室の改修工事に要する費用など、2億400万円を増額するもので、補正後の予算総額は、95億1300万円となりました。

〈補正予算の主な内容〉

・ゆりがねの湯及びまほろばの湯改修工事に係る経費

700万円

・馬頭中学校及び小川中学校体育館受変電設備改修に係る経費

2250万円

・馬頭図書館の冷房設備更新工事に係る経費

365万円

【質問】 観光施設管理費に計上した700万円の内容は。

【答弁】 ゆりがねの湯のボイラー交換工事に100万円。まほろばの湯の露天風呂ろ過機の交換工事に600万円を計上。

【質問】 温泉設備の工事に伴い、臨時休館の予定はあるか。

【答弁】 ゆりがねの湯は休館日に工事を予定。まほろばの湯は、休館せずに作業を進めていく。

【質問】 中学校費に計上した2250万円の工事請負費の内容は。

【答弁】 馬頭中学校と小川中学校の体育館に空調設備を設置するにあたり、電源を確保するために変電設備を改修するもの。

【質問】 中学校体育館の空調設備は、いつ頃から使用できるか。

【答弁】 令和7年の8月頃から使用できるようにしたい。

第7回 定例会議案採決(12月5日)の状況

賛成:○ 反対:●

議案の内容	議員名	神場 圭司	矢後 紀夫	高野 泉	福田 浩二	大金 清	川俣 義雅	益子 純恵	小川 正典	鈴木 繁	大金 市美	川上 要一	小川 洋一
承認第1号 那珂川町国民健康保険条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
承認第2号 令和6年度那珂川町一般会計補正予算(第4号)の専決処分の承認について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第1号 那珂川町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第2号 令和6年度那珂川町一般会計補正予算(第5号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第3号 令和6年度那珂川町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第4号 令和6年度那珂川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第5号 令和6年度那珂川町介護保険特別会計補正予算(第2号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第6号 令和6年度那珂川町水道事業会計補正予算(第2号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第7号 令和6年度那珂川町下水道事業会計補正予算(第2号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※益子明美議長は採決に加わりません。



一般質問！ 大金 清 議員

能登半島地震を踏まえた水道施設の耐震化計画は

(町長) 国から要請のあった令和7年1月末までに策定する



大金 清 議員

- Q 水道施設等の耐震化について
- Q 水道管等の漏水対策について
- Q 投票率の向上について

水道施設等の耐震化

質問 耐震化の進捗状況は。

答弁 水道本管の耐震化率は12.7%で約34kmが対策済み。水道施設等は、耐震診断を実施しており、診断結果に基づいて更新や補強等の対策を行っていく。

質問 取水施設や浄水施設、配水池施設等の耐震化率は。

答弁 取水場と浄水場は0%で、配水池は5%。

質問 国では、能登半島地震を踏まえ、耐震化計画の策定を要請しているが町の対応は。

答弁 現在、策定作業を進めている。耐震化についても、東日本大震災から対策を進めている。

質問 耐震化計画の策定と水道事業の広域化における国の方針は。

答弁 耐震化計画の推進だけでなく、運営基盤の強化や施設規模の適正化、広域化なども含めた強靱で持続可能な上下水道システムを構築するとしている。

水道管等の漏水対策

質問 漏水調査の実施状況は。

答弁 漏水調査は、調査する配水区域を変更しながら、全ての水道管を調査している。昨年度は28箇所で見られるなど効果が上がっている。

質問 漏水している割合は。

答弁 前年度に漏水と想定されるものは約34万4千m³。年間の総配水量からみた割合は約19.5%。

質問 有収率の年間目標は。

答弁 年間の漏水量を半分に抑えつつ、有収率の向上につなげたい。

質問 人工衛星やAIなどを活用した漏水調査を導入する考えは。

答弁 先進事例の情報収集に努めながら、他の自治体の導入状況や効果等も確認して検討したい。



委託業者による漏水調査

投票率の向上

質問 衆院選における臨時期日前投票所の投票状況は。

答弁 リオン・ドル小川店で午後1時から午後5時まで実施し、2日間で178人の方が投票した。

質問 移動手段がない方のために、移動期日前投票所を設置する考えは。

答弁 平日の期日前投票において、デマンドタクシー往復無料乗車券を交付しており、周知徹底を図りながら投票率の向上に努める。

質問 商業施設や高校での投票など、期日前投票所を拡充する考えは。

答弁 臨時や移動投票所については、選挙管理委員会で検討したい。

質問 期日前投票が定着して夜間の投票が減っていることから、立会人の負担軽減なども考慮し、投票時間を午前7時から午後6時までに変更する考えは。

答弁 近隣市町では、終了時間を午後6時までとしていることから、選挙管理委員会で検討したい。

一般質問！ 川俣義雅 議員

- Q マイナ保険証一本化への対応について
- Q 加齢性難聴者の補聴器購入への補助について

マイナカードから保険証解除ができるか

(住民課長) マイナカードに保険証登録も解除もできる



川俣義雅 議員

質問 資格確認証をなくした場合、すぐに再発行をしてもらえるがマイナ保険証を紛失した場合、は。

答弁 再発行手続きが必要となり有料になる。

質問 資格確認証は期限前に送付されてくるが、マイナ保険証の更新手続きは。

答弁 マイナンバーカードの有効期限を迎える前に更新手続きが必要となる。

質問 資格確認証が使用できない場合はないが、マイナ保険証が使用できない場合はあるか。

答弁 受付機の故障や停電などが考えられる。

質問 町民にマイナ保険証の問題や不便さを周知する考えは。

答弁 トラブルなどがあれば正確な広報に努めたい。

質問 マイナカードへの保険証登録について、解除ができることを広報紙で周知する考えは。

質問 豊島区では追加検査として聴力検査を行っている。検査環境の面で町の施設でも対応は可能か。

答弁 防音や個室の環境が整えられれば対応は可能。

質問 高齢や障がいなどでマイナ保険証の使用が困難な方が申請をすれば、資格確認証の交付が受けられるか。

質問 加齢性難聴は認知症に至る確率が高くなる。補聴器の装用が有効と考えるが町の考えは。

答弁 聴力を一定程度取り戻すという点では有効。

答弁 個々の状況を伺いながら丁寧に対応したい。

加齢性難聴者の補聴器購入補助

質問 町が行う特定健診や後期高齢者健診に聴力検査を取り入れる考えは。

答弁 現時点で実施は検討していないが、加齢性難聴の理解等に努めたい。

質問 町職員の健診と同じように聴力検査を実施すれば、早期発見につながるのではないか。

答弁 法的根拠に基づいて、特定健診等では実施していない。

質問 さくら市では10月から補聴器購入の補助を始めているが、申請状況などの情報は掴んでいるか。

答弁 10人が申請したと伺っている。

質問 補聴器購入の補助を行う自治体が増えているが、町で実施する考えはあるか。

答弁 現時点では、補助する考えはない。

マイナ保険証一本化への対応

質問 2025年7月31日まで、国保と後期高齢者医療の健康保険証が使えるか。

答弁 間違いなく使える。

質問 8月1日以降は、これまでの健康保険証の人には資格確認証が送られる。医療機関で月に1度は資格確認証の提示が求められるが、マイナ保険証の場合はどうか。

答弁 毎回提示が必要となる。



一般質問！ 高野 泉 議員

Q 高齢者の孤独・孤立対策について
Q 那珂川町DXプロモーションプランについて

高齢者の孤独・孤立に対する町の考えは

(町長) 法律の理念に基づき支援を

総合的かつ計画的に推進する



高野 泉 議員

高齢者の孤独・孤立対策

質問 高齢者の孤独・孤立の問題を町ではどのように捉えているか。

答弁 国が示した基本方針では、相談支援や見守り、交流の場や居場所の確保など4つの柱を定めており、町としても国の方針と整合を図ったうえで支援の定義づけをしていく。

質問 情報交換や支援内容を協議する地域協議会を設置する考えは。

答弁 地域の実情に応じて設置が可能であり、協議会の必要性を調査研究していきたい。

質問 当町における孤独死・孤立死の実態を把握しているか。

答弁 実態把握は難しいため、民生委員やケアマネージャー等と連携しながら早期の対応にあたる。

質問 孤独死や孤立死に対応したマニュアルを作成しているか。

答弁 様々なケースはあるが、マニュアルは作っていない。

質問 当町での高齢者の孤独・孤立を防ぐための対応策は。

答弁 民生委員の協力により、65歳以上の一人暮らしの方を対象に、独居状況の確認作業を進めている。また、緊急通報システムなどの見守り事業のほか、地域包括支援センターを中心とした継続的な訪問などを実施している。

DXプロモーションプラン

質問 DXプランで位置付けた各種取組の進捗状況は。

答弁 今年度においては、マイナンバーカードを活用した窓口支援システムや電子入札システムの導入のほか、各課の調整担当者などで構成するDX推進委員会を組織した。

那珂川町 わくわく未来DX宣言

～デジタル技術の活用により町民一人ひとりの満足度が向上するまちへ～

那珂川町では、これからの町民一人ひとりに寄り添い、町民の幸福を大切に、子どもから高齢者まで全ての町民に「暮らしにデジタル技術が役立つ」と感じてもらうこと、子どもから高齢者まで、誰もが安心してデジタル技術を利用できる環境を整備し、利便性や効率性を高められるよう、取り組んでいます。また、本宣言を推進するにあたり、全ての町民がデジタル技術の恩恵を受け、全ての町民がデジタル技術の恩恵を受け、利便性や効率性を高められるよう、取り組んでいます。わくわくする「まちづくり」を目指すと共に宣言します。

令和5年11月 那珂川町長 福島 泰夫

那珂川町 ～ DX ～ への基本理念

1. 全町民にデジタル化の利便性をお届けします。
2. デジタル技術の活用により、まちの取組を変えていきます。
3. 人と人との縁を大切にします。

那珂川町 ～ DX ～ への重点項目

1. 町民が満足するサービス 子育て・教育・福祉・防災・経済活動など様々な場面でデジタル技術を活用し、町民生活の満足度を向上させます。	2. 戦略的広報 町民に対しての取組を効果的に伝えるとともに、関係人口の拡大に向けて町の内外に那珂川町の魅力を発信します。	3. 業務の刷新 町民との対面サービスに力を入れる体制や時間を捻出するため、空力的に業務の改善及び効率化を積極的に進めます。
---	---	--

町が発表した「わくわく未来DX宣言」

質問 専門知識を持ったアドバイザーの活用は。

答弁 県のDX推進アドバイザー制度を活用し、セキュリティポリシーの見直しに協力いただいた。

質問 DXを効果的に推進するための職員のスキル向上に向けた取り組みは。

答弁 今年度は、総務省と公益財団法人全国市町村研修財団が共催で実施する「DX推進リーダー育成セミナー」に職員を1名参加させている。来年度以降も、積極的に研修等に参加しながら職員のスキル向上に努めていく。

質問 職員のスキル向上の一環として、ITパスポートなどの資格取得を推進する考えはあるか。

答弁 資格が各課の業務に生かせるかわからないため、取得を推進する考えはない。

質問 学校教育でのDXを今後どのように推進していくのか。

答弁 授業等におけるICTを活用した指導力の向上を図り、教員の授業改善と児童生徒の学習改善を図っていく。



一般質問！ 福田浩二議員

Q 公営住宅の管理運営について

老朽化した公営住宅の解体、再建築もしくは分譲を

(町長) 各種施策などを踏まえ総合的に判断していく



福田浩二 議員

答弁 30歳代までの方が31%、40歳代が11%、50歳代が16%、60歳以上が42%を占めている。

質問 退去の理由で多いものは、

答弁 退去の主な理由としては、町外への転出や住宅を新築したことにより、新居に転居される方が多くなっている。

質問 公営住宅は建築年次も古く、老朽化もみられるが建物の現状は。

答弁 管理している住宅のうち、59・7%が耐用年数を経過しており老朽化が進んでいる。耐用年数を経過した住宅については、用途廃止に向けて入居者の募集を見送っている。

質問 今後も入居者の募集は行わないのか。

答弁 老朽化した住宅は入居者を募集せず、政策空き家として位置付けている。



建築年次が古い町営住宅

質問 政策空き家となった住宅はどのように管理しているのか。

答弁 定期的に職員が状態を確認し、草刈りなどを行っている。

質問 修繕件数の推移は。

答弁 3年間の推移をみると、業者に依頼したもので年間40件から60件程度の修繕がある。

質問 屋根や外壁などの大規模修繕の予定はあるのか。

答弁 現在のところ大規模修繕の計画はないが、建物の状況により修繕の必要性や時期等を判断していく。

質問 公営住宅を今後どのように運営していくのか。

答弁 計画に基づいて、施設の改修や修繕による長寿命化を図るほか、老朽化した住宅の用途廃止などにより適切に管理を行っていく。

質問 新たな公営住宅を建設する考えはあるか。

答弁 公営住宅の需要の見込みや町の施策なども含めて総合的に判断したい。

質問 古くなった住宅を解体し、跡地を分譲地として整備する考えはあるか。

答弁 住宅解体後の土地利用についても、町の総合振興計画や各種施策なども踏まえ総合的に判断していく。

公営住宅の管理運営

質問 公営住宅における近年の入居率の推移は。

答弁 町では、15団地298戸を管理しており、入居率は令和4年度が216戸で72・4%、令和5年度は203戸で68・1%、令和6年度は194戸の65・1%で推移している。

質問 公営住宅に入居されている方の年齢構成は。

一般質問！ 神場圭司 議員

Q ふるさと納税の現状と課題について
Q 那珂川町合併20周年記念事業について

合併20周年記念の目玉として新しいゆるキャラを

(町長) 新たなキャラクターを増やす考えはない



神場圭司 議員

ふるさと納税の現状と課題

質問 ふるさと納税は町にとって貴重な財源であり、自治体をPRする場でもあるが、町のふるさと納税における現状と課題は。

答弁 返礼品の数を増やしてきたが、寄付額と寄付件数は年々減少していることから、ふるさと納税業務を新たな中間業者に委託して返礼品の見直しを行った。今後は、新たな返礼品の開拓とポータルサイトの充実を図っていく。

質問 ふるさと納税の返礼品として好評だった温泉トラフグがなくなったことにより寄付額が減少しているが、寄付額を増やすために町として取り組んでいることは。

那珂川町合併20周年記念事業

質問 合併10周年では、原動機付自転車のみならず、自走型ロボットや田んぼアートへの助成、記念式典などを行ったが、合併20周年ではどのような事業を考えているのか。

答弁 町のさらなる飛躍に向けた新たな出発点として、町民一人ひとりが那珂川町の発展を目指し、魅力あるまちづくりと元気で笑顔あふれるような記念事業を実施したい。



なかちゃんの田んぼアート

質問 町の一員として「なかちゃん」を特別住民登録する考えは。

答弁 現在のところ登録は考えていない。

質問 親しみやすいキャラクターとなるよう、なかちゃんグッズを制作してみているかどうか。

答弁 グッズについては、いろいろなイベント等で作成しており、可能な限り活用して町をPRしていく。



オリジナルナンバープレート

質問 合併20周年記念事業のひとつとして、なかちゃんの家族や仲間を増やしてはどうか。

答弁 数多くのグッズもできており、今後もなかちゃん自体の知名度向上を図るため、新たな公式キャラクターを増やす考えはない。

質問 老若男女を問わず目玉事業を町内外のあらゆる方から公募してはどうか。

答弁 記念事業は予算編成の中で検討する。なお、各種団体との協賛事業については、補助金または、交付金事業として事業提案の公募を予定している。



一般質問！ 矢後紀夫 議員

Q 那珂川町馬頭広重美術館の運営について
Q 将来に向けた那珂川町の少子化対策について

馬頭広重美術館の改修工事費用、3億1千万円の費用対効果は

(教育長) 来町者の増加により経済の活性化に寄与できる



矢後紀夫 議員

質問 ルーバーの破損について、設計した隈研吾設計事務所に瑕疵(かし)はなかったか。

答弁 経年劣化によるもので設計の瑕疵(かし)はない。

質問 ルーバーについては、開館以来どのようなメンテナンスを施してきたのか。

答弁 予算上の問題から、一度もメンテナンスしていない。

質問 ルーバーの改修による経済効果を試算する考えはあるか。

答弁 令和7年度のリニューアル工事に合わせて試算する。

質問 美術館の運営に関して町民アンケートを実施する考えは。

答弁 美術館協議会を設置して、町民の意見を運営に生かす。

質問 アンケートはしないのか。

答弁 アンケートの実施については、協議会を開催して検討する。



改修が計画されている馬頭広重美術館

将来に向けた町の少子化対策

質問 深刻な那珂川町の少子化にどう歯止めをかけるのか。

答弁 妊娠、出産、子育て期、小中学校に至るまでオール那珂川体制で切れ目ない支援を実施していく。

質問 那珂川町で子育てしたいと思えるような、他市町とは違った施策を検討する考えはあるか。

答弁 次期子ども子育て支援プランで効果的な施策を検討する。

質問 出会いの創出と婚活応援として、マッチングアプリの利用料を町で補助する考えは。

答弁 補助の必要性については、調査研究している段階。

質問 町が目標としている年間の出生数は何人か。

答弁 目標の出生数は定めていない。

質問 深刻な人口減少に対応するため、少子化対策を一括して担うプロジェクトチームを編成するべきと考えるが町の考えは。

答弁 現在策定を進めている、次期総合振興計画及び総合戦略と併せて組織機構の在り方を検討していく。

質問 中学生も傍聴しているが、異次元の少子化対策に向けて、町はどのような姿勢で臨むのか。

答弁 出生数を減らさないよう、町でも様々な対策を講じている。中学生からも意見を寄せていただき、共に町を発展させていきたいと考えている。

馬頭広重美術館の運営

質問 これまでの運営に対する課題や問題点は。

答弁 反省すべき点もあるが、特に設備の改修や建物のメンテナンスの重要性を再認識している。

質問 馬頭広重美術館の特徴のひとつでもあるルーバーの改修について町の考えは。

答弁 経年劣化によりルーバーの腐食が目立つことから、令和7年度に改修を予定している。



一般質問！ 益子純恵 議員

- Q 公営住宅のバリアフリー化について
- Q 子育て支援策の拡充について

認定こども園でおむつのサブスクリプション導入を

(町長) 利便性や保護者負担、おむつ選定の検討が必要



益子純恵 議員

答弁 付加価値を付ける事は効果的と考える。今後の政策等を総合的に判断し、調査・検討していく。

質問 国では公営住宅のバリアフリー化の補助を設けている。有利な補助制度を活用し、後付けエレベーターの設置を検討する考えは。

答弁 公営住宅等ストック総合改善事業補助にエレベーター設置のメニューがあるが、費用や構造上の問題を含めた検討が必要になる。

子育て支援策の拡充

質問 育児パッケージのカタログギフトに、子育て中のお母さんがホッとする体験メニューはあるか。

答弁 現在は、育児用品等が中心で体験メニューはない。

質問 こども誰でも通園制度や町の子育て支援事業に利用できるクーポン券などを検討できないか。

答弁 こども誰でも通園制度が令和8年から実施されることから、それまでに調査・検討していく。



町が贈呈している育児パッケージ

質問 こども園の保護者も関心を寄せているおむつのサブスクリプションについて、これまで導入を検討したことはあるか。

答弁 昨年度、業者からおむつのサブスクリプション事業の提案があり、各こども園において、お子さんが使用しているおむつのメーカー等を調査したことはある。

質問 宮崎県では、おむつのサブスクリプションへの助成に取り組んでいるが、町から県に対して支援を要望していく考えはあるか。

答弁 先進事例を調査・研究し、必要があれば県への要望も検討していく。

質問 郷土愛を育むためにも、高校生の通学に対して支援をすべきでは。

答弁 入学進学支援金事業を継続し、子育て世帯の経済的支援を行っていく。

質問 町外の高校に通う生徒の定期券購入補助や保護者の負担軽減策を講じる考えは。

答弁 通学手段の状況把握や対象者の選定、支援内容の検討が必要になるため現在の制度では難しい。

質問 デマンドタクシーの乗車率向上のためにも、馬頭高校生の乗車に対する補助ができないか。

答弁 現在の馬頭高校通学補助事業における制度の運用や条件面での課題を考えると補助は難しい。

公営住宅のバリアフリー化

質問 町営・町有住宅におけるバリアフリーの取り組みは。

答弁 大宝地住宅は、居室内の段差がなくトイレやお風呂には手すりを設置している。また、玄関にはスロープが整備され、車椅子に対応した居室を4部屋整備している。

質問 熱海市では、ニトリと連携して市営住宅のリフォームを行っているが、若い世代に選ばれる住環境づくりを目指す考えは。

第1回議会 1月臨時会

令和7年第1回那珂川町議会臨時会が1月22日に開催され、国が予算措置した給付金事業に係る補正予算のほか、追認を含む財産の取得について審議を行いました。

◆一般会計補正予算(第6号)

(議員賛成 原案可決)

低所得世帯支援給付金事業に係る交付金や事務経費など、5800万円を増額補正するものです。

◆財産の取得(追認)

(賛成多数 原案可決)

リース契約の終了後に、町に無償譲渡された物件を町の財産として取得するもので、LED防犯灯や情報系サーバなど、16物件を財産として取得するものです。

◆財産の取得

(議員賛成 原案可決)

小中学校の校務用として使用するノートパソコン(134台)やサーバ等について、株式会社めぐきリース(茨城県水戸市)と所有権移転付きのリース契約を締結するものです。

第1回 臨時会議案採決(1月22日)の状況

賛成:○ 反対:●

議案の内容	議員名	神場	矢後	高野	福田	大金	川俣	益子	小川	鈴木	大金	川上	小川
		圭司	紀夫	泉	浩二	清	義雅	純恵	正典	繁	市美	要一	洋一
議案第1号 令和6年度那珂川町一般会計補正予算(第6号)の議決について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第2号 財産の取得について(追認)	町長提出	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
議案第3号 財産の取得について	町長提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

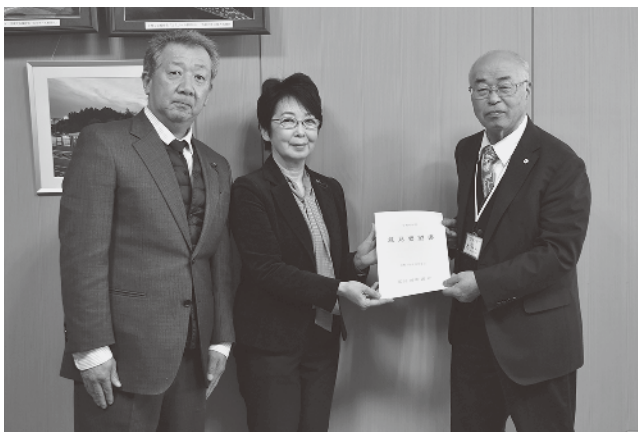
※益子明美議長は採決に加わりません。

令和7年度

重点施策の拡充要望

1月22日に、益子明美議長と福田浩二副議長が町長室を訪れ、令和7年度の施策等に関する要望書を福島町長に提出しました。

令和6年6月に議員全員で実施した議員行政調査や、常任委員会が実施した団体との意見交換会で出された課題などをもとに、町の重点施策の拡充など5項目を要望書にまとめました。



福島町長に要望書を提出する
益子議長(中央)と福田副議長(左)

議会からの要望事項

◆若い女性や子育て世帯が町での暮らしに満足できるように、子育て支援や移住定住促進における新たな施策や取組などを検討されたい。

◆移住定住に特化したアドバイザーや専門職員の配置のほか、移住等関連補助金の一本化など、移住希望者を選んでもらえるような支援環境の整備と庁内の体制強化に努められたい。

◆重点プロジェクトのひとつでもある子育て支援策の充実を図るとともに、町内の子育てニーズを把握しながら、町の実情に沿った独自の支援策を検討されたい。

◆町のハッピースロープランのブラッシュアップを図るとともに、県と連携しながら不登校児童生徒のための居場所づくりに取り組まされたい。

◆少子化により子どもたちの文化活動に触れる機会が減ってきていることから、町文化協会とも連携しながら子どもたちの文化体験活動の機会を確保されたい。



知りたい!



馬頭高校生との意見交換

高校生8名が議員に質問



主題

～これからも住み続けたい那珂川町を一緒に語ろう～

昨年に引き続き、那珂川町議会と馬頭高校生との意見交換会を10月29日に議場で開催しました。馬頭高校からは、生徒会役員の生徒8名が参加し、「これからも住み続けたい那珂川町を一緒に語ろう」をテーマに議員と意見交換を行いました。

議題1

あなたが考える町の魅力(場所・しくみ・資源)は何ですか？

議題1では、「あなたが考える町の魅力は何ですか？」と題して、高校生にもまちづくりや地域づくりに主体的に取り組んでもらえるよう、高校生から見た町の魅力や感じていることなどについて意見交換をしました。

質問 那珂川町の魅力は、歴史的建造物があること。イベントでは、夢まつりや光のイベントが人気を集めているが、それらを町外に広めていく予定はありますか。
(3年・江連杏菜さん)

答弁 町の魅力を知ってもらい、町を訪れてもらうことが重要だと考えている。様々なイベントやPRを定期的を実施していくので、高校生の皆さんにも町の魅力を伝

えてもらいたい。

質問 那珂川町の魅力は温泉が多いことや、住民同士が助け合って生活していても住みやすく温かい町だと感じているが、こうした魅力を伝える方法はありませんか。
(2年・薄井梨紗さん)

答弁 魅力を伝える方法としては、普段の行動の中で伝えていくことが大切だと考えている。議員にとっても馬頭高校は欠かせない存在。生徒の確保や町の支援などを働きかけていきたい。



高校生の質問に答える議員

議題2

若い人が議会に興味を持つためにはどのようなことが必要ですか？

議題2では、「若い人が議会に興味を持つためにはどのようなことが必要ですか？」と題して、議会に対して高校生が感じていることや疑問などについて意見交換をしました。

質問 若い人が議会に興味を持つためには、デジタルメディアの活用や議会参加の機会が必要だが、若者が議会に興味を持つためにどのようなことに取り組んでいますか。
(2年・矢田谷卓希さん)

答弁 年4回発行している「議会だより」を高校生にも読んでもらえるように作成・編集している。その他、今年開催する議会報告会では、高校生も参加できるようにワークショップ形式での開催を予定している。

質問 生徒会選挙などを町と協力して本格的なものにすれば選挙に興味が出ると思うが、投票箱の貸し出しなどの協力は可能でしょうか。
(3年・片岡 光さん)

答弁 過去に中学校の生徒会役員を決める選挙で、実際の投票箱を使用したことがあると伺った。町の選挙担当に確認したところ、投票箱の貸し出しなど、学校からの要望があれば町もできる限りの協力はしたいとのこと。

質問 議会は若者にとって馴染みがないことから、実況・解説付きで議会を中継してはどうか。また、議員の皆さんはいつ頃から政治や議会に興味を持つようになりましたか。
(2年・大金隼也さん)

答弁 高校生のときに新聞配達のパイトをしていたが、新聞で政治の記事をたくさん目にして興味を持った。



議員へ質問する高校生

議題3

町づくりで必要なことは何ですか？

議題3では、「町づくりで必要なことは何ですか？」と題して、これからも住み続けたい那珂川町にするためにはどうしたらよいか、高校生が持つ視点や必要な取組について意見交換をしました。

質問 町のアピールポイントを広く発信することが大切だが、議員の皆さんは人口を増やすためにどのような取組が必要だと考えていますか。
(2年・桑野琴音さん)

答弁 議会としては、移住促進などの人口減少対策で成果を上げている自治体を視察し町へ提言している。町の魅力を様々な方法で発信し、つながりを増やしていくことが大切だと考えている。

質問 小さい子どもを持つ家庭が1日中楽しめるような場所やスペースを造ることが必要と考えるが、そうした場所を造る計画はありますか。
(2年・薄井 翔さん)

答弁 町では公園の整備に取り組んでおり、議会からも整備の内容や時期について要望している。

ウエルフルながわについても、町民の声を踏まえた意見を議会から町へ申し入れている。

質問 町は人口減少などにより空き家が増加していると感じるが、空き家の利用をどのように考えていますか。
(3年・田村汎駕さん)

答弁 議会としても、今後どうしていくべきか町と議論を重ねている。これからも、空き家の活用について町に提言していきたい。



全員での記念撮影

馬頭高校生の皆さん、ご参加いただきありがとうございました。

住み続けたい那珂川町ってどんな町？

ワークショップで 活発に議論

町民と議会との意見交換会を開催



会場全体の様子

12月8日に小川総合福祉センターの多目的集会室において、町民と議会との意見交換会を開催しました。

意見交換会には、高校生を含む50名が参加し、7つのグループに分かれて「住み続けたい那珂川町ってどんな町？」をテーマに意見交換を行いました。

また、今回の意見交換では、より多くの方が発言できるように、ワークショップ形式を取り入れた形で実施しました。



あいさつする益子明美議長

■ワークショップとは…
参加者が主体性を持って参加し、それぞれに考えて意見を出し合うグループ学習のひとつ。

総合司会を務めた矢後紀夫議員から、意見交換の際のルールについて説明があり、参加者は「聴く」「受け止める」「待つ」「愉しむ（たのしむ）」の4つを基本に意見交換に臨みました。

意見交換では、議員も各グループに加わり、作業の進行管理や意見の集約など参加者と協働してワークショップを行いました。



意見を出し合う参加者と議員

前半は「那珂川町はどういう町？」をテーマに、町の魅力や不満に感じている点について各グループで検証しました。

参加者は、自分の意見を付箋紙に書き模造紙に張っていきましました。出された意見は、グループリーダー（議員）が、参加者の考えを聞いて、同じような意見を集約し、分野ごとに整理をしながらグループの意見をまとめていきました。

議題1
那珂川町はどういう町？

住み続けたい町にするためには

後半は「住み続けたい町にするためには」をテーマに、住み続けるための条件やその実現に向けた施策や取組などについて検討を行いました。

議題1と同様に、各自の意見を付箋紙に書き出し、グループリーダーが人口減少対策やインフラ整備など、項目ごとに意見を整理していききました。



グループでまとめた意見を発表

各グループから出された意見

■町の魅力・良い所

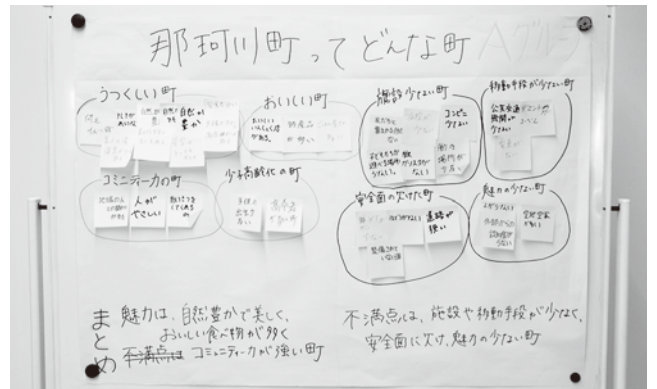
- ・自然が豊かで景観が美しい
- ・おいしい食べ物が多い
- ・地域のコミュニティが強い
- ・人が優しく住みやすい
- ・歴史や文化が深い
- ・災害が少ない
- ・誇れる産業がある(バイオマス)
- ・温泉が多い

■町の課題・不満な点

- ・少子高齢化が進んでいる
- ・交通が不便(移動手段が少ない)
- ・安全面に欠けている(町が暗い)
- ・町の財政が厳しい
- ・行事が少ない
- ・病院や娯楽施設が少ない
- ・働く場所が少ない
- ・若者にとっての魅力が少ない
- ・老後の生活が不安

■住み続けるための条件

- ・人口減少対策の充実
- ・交通インフラの整備
- ・子育てしやすい(優しい)町
- ・観光の振興と町の活性化
- ・ボランティア活動の充実
- ・農業、産業の継続と育成
- ・医療、教育の充実



グループでまとめた意見

- ・デジタル情報の環境整備
- ・来なくなる、帰りたくなる町
- ・楽しく生活できる町

■必要な施策・取組

- ・移住対策と結婚対策
- ・空き家等の利活用
- ・子どもに使うお金を増やす
- ・農林水産業の企業化
- ・移住者に車1台と家を贈呈する
- ・子育てに対する経済的支援
- ・歩道や道路の整備
- ・農業等に対する町からの支援
- ・町のPRや情報発信の強化
- ・若者が町に残るための施策
- ・仕事や働く場所の創出、確保

参加者の意見を
役場に展示

多くの町民の方に町民と議会との意見交換会の様子を知ってもらおうと、12月18日から1月16日の間、役場1階の多目的活動室において意見交換会の様子をまとめたパネルを展示しました。

パネルには、今回実施したワークショップの内容をはじめ、各グループでの作業の様子(写真)や参加者が意見を出し合った模造紙(実物)などを展示しました。



参加者の意見が書かれた模造紙などを展示

総務産業常任委員会と

那珂川交通安全協会

総務産業常任委員会は、11月22日に那珂川交通安全協会と意見交換会を実施しました。

意見交換会には、総務産業常任委員会の委員7名と交通安全協会からは、國安武会長をはじめ11名の役員らが出席し、団体の現状や課題について意見交換を行いました。



那珂川交通安全協会との意見交換

■安全協会からの意見

・協会の活動としては、交通安全の啓発活動に加え、道路の草刈り、U事溝の土あげ、枝払い・竹切り、カーブミラーの清掃などを行っている。

・各支部において、交通安全防止の活動として、軽トラックによるパレードや交通事故ゼロを願う「事故なし(梨)」や「事故に合うまい(米)」などを配布して啓発にあたっている。

・協会としても、会員を増やすための努力はしているが、会員は減少傾向にある。

・会員の減少に伴い、予算規模は縮小しており活動の維持が難しくなるおそれがある。

・空き家となつている敷地の草が道路まで伸びて交通の支障となっている場所があり、町にも対応してもらいたい。

・小川地区の交差点において、方向指示器を出さずに左折する車が見受けられる。

教育民生常任委員会と

那珂川町文化協会

教育民生常任委員会は、12月10日に那珂川町文化協会と意見交換会を実施しました。

意見交換会には、教育民生常任委員会の委員6名と文化協会からは、郡司正幸会長をはじめ6名の役員が出席し、団体の現状や課題について意見交換を行いました。



那珂川町文化協会との意見交換

■文化協会からの意見

・文化協会の活動について、協会がどういった文化活動をしているか、町民にもっと周知していく必要がある。

・今年度は、多くの町民の目に触れるよう、全戸配布用の広報紙を作成して活動の周知を図った。

・文化協会としても、部活動の地域移行について、今後対策などを考えていく必要がある。

・少子化に伴い、学校等で子どもたちの文化活動に触れる機会が減少していると感じる。

・会員の高齢化により、以前に比べて発表会や展示会などの開催が困難になってきている。

・文化祭の開催方法について、作品の展示に加え、来場者に文化活動を体験してもらえようような機会を設けていきたい。

・文化協会の活動について、議会として関心を持ってくれたことはありがたい。

政治、考えるきっかけに

約50名が回答



アンケートに答える参加者

1月12日にあじさいホールにおいて「二十歳の祝い」が開催され、お祝いのために益子議長をはじめ議員が式典に出席しました。また、二十歳を機に少しでも政治や議会に関心を持ってもらうようと、昨年に引き続き、二十歳を迎える若者を対象とした「議会に関するアンケート」を実施しました。

アンケートは、選挙に行ったこととはあるかなど全9項目について、式典に出席した88名にアンケートを配布し、式典終了後に議員らが回答を呼びかけ、49名が回答しました。(回答率は55・68%)

アンケート結果

問 選挙権を得てから選挙にいきましたか。

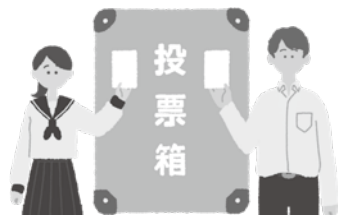
はい	32名
いいえ	17名

問 どのような選挙に行きましたか。(複数回答可)

国政選挙	18名
知事選・県議選	16名
町長選・町議選	15名

問 国会や議会を傍聴またはテレビやYouTube等で見たことがありますか。

ある	19名
ない	29名



問 若い世代が議会に興味を持つために必要なことは。

SNSを活用する	29名
若い人が議員になる	14名
学校で議会を学ぶ機会を設ける	8名
その他	3名

問 議員になってみたいと思いますか。

はい	4名
いいえ	44名

問 那珂川町をどんな町にしたら良いと思いますか。(自由記載)

- ・若者が住みやすい町
- ・電車などの公共交通機関の整備
- ・誰一人不自由なく暮らせる町
- ・子どもの笑顔があふれる町
- ・自然と歴史に重点を置いた町

問 那珂川町議会への意見・ご要望などがあればご記入ください。

- ・議員報酬を増やす
- ・道路が整備されていて良い

ご協力ありがとうございました

モニター5名を新たに委嘱

新たに委嘱

10月28日に議会広報特別委員会と議会広報モニターとの懇談会を開催しました。懇談会には、益子議長をはじめ、議会広報特別委員会の委員5名が出席し、議会広報モニターと議会だよりについて意見交換を行いました。

また、懇談会では、新たに5名の方を議会広報モニターとして委嘱し、11月10日発行の第77号から議会だよりのモニタリングを依頼しました。



懇談会であいさつする川俣義雅委員長

議会広報モニターからのご意見ご感想

議会広報モニターさんから寄せられた議会だより第77号(前号)に関するご意見・ご感想について、一部をご紹介します。

○掲載内容に関するご意見

広報モニター懇談会で会計歳入歳出決算書の単位について質問がありました。千円単位から円単位に修正されており対応が早く良い事だと思いました。

気になったワードをWEB検索すると那珂川町でなく那珂川市(福岡県)が真っ先にヒットするケースがあり少し残念でした。(こども家庭センター、子育て支援アプリなど)
議会だよりの中に、本文中のキーワードが検索できる二次元コード欄があると興味の深掘りがすぐにできていいなと感じました。

議員質問について、各議員共細かい所まで調べておられて関心しました。その中でも空き家問題について、大きな問題だと思いました。これから増えていくだろうと思います。

○その他議会だよりに関するご意見

表紙が横の写真が最近多いが、紙面をひらく際に上下がわかりにくい。

オレンジに白色だとひかかって見にくさを感じました。少しトーンが暗いダークオレンジなどでも良いのでは。

読みやすいか、わかりやすいかという視点の前に、読み手の知識レベルをどの程度に設定しているかによって感想も変わってくると思う。

委員会より…

専門用語を伝わりやすい単語に置き換えるなどわかりやすい紙面づくりを心がけています。特に対象の年齢を定めるものでないと考えています。

町村議会議長会 議員研修

11月19日、県総合文化センターにおいて、栃木県町村議会議長会主催による町村議会議員研修会が開催され、那珂川町議会からは、11名(2名欠席)の議員が出席しました。

研修会では、東北大学大学院情報科学研究科准教授の河村和徳氏から、「議員のなり手不足対策と議会改革」について講演がありました。



議員研修会の様子

《常任委員会等の経過》

総務産業常任委員会

開催日 11月22日

建設課から、現在策定を進めている馬頭公園再整備実施計画の素案について説明を受けました。

開催日 2月5日

行政視察として、茂木町における移住定住施策と地域づくりのために取り組んでいる労働派遣事業を視察しました。

教育民生常任委員会

開催日 12月3日

子育て支援課から、現在策定を進めている第3次那珂珂川町子ども・子育て支援プランの案について説明を受けました。

開催日 1月30日

行政視察として、茨城県境町における子育て支援施策や英語教育の取り組みなどを視察しました。

議会改革特別委員会

開催日 11月22日

第2小委員会を開催し、議員報酬や議員定数などについて協議を行いました。

開催日 12月5日

議会改革特別委員会を開催し、第1小委員会並びに第2小委員会の進捗状況を確認しました。

開催日 12月9日、1月21日

第2小委員会を開催し、活動量の調査方法等について協議を行いました。

開催日 12月26日、2月3日

議会改革特別委員会を開催し、原価方式による議員報酬の算定等について協議を行いました。

議会広報特別委員会

開催日 12月24日、1月22日

1月29日
議会だより第78号（2月10日発行）発行のため、編集会議を行いました。

議会のうごき&内容

令和7年		令和6年	
1月		11月	
8日	南那須地区広域行政事務組合議会議員全員協議会	10日	議会だより第77号発行
8日	南那須地区広域行政事務組合議会臨時会	19日	栃木県町村議会議長会議員研修会(宇都宮市)
17日	議会運営委員会(1月臨時会)	22日	議会改革特別委員会第2小委員会
21日	議会改革特別委員会第2小委員会	22日	総務産業常任委員会
22日	令和7年第1回議会臨時会	22日	総務産業常任委員会(団体との意見交換会)
22日	議会広報特別委員会(第9回、第78号編集)	25日	議会全員協議会
29日	議会広報特別委員会(第10回、第78号編集)	26日	議会運営委員会(12月定例会)
30日	教育民生常任委員会行政視察(茨城県境町)		
3日	議会改革特別委員会	3日	令和6年第7回議会定例会(一般質問)
5日	総務産業常任委員会行政視察(茂木町)	3日	教育民生常任委員会
10日	議会だより第78号発行	4日	令和6年第7回議会定例会(一般質問)
		5日	令和6年第7回議会定例会(議案審議)
		5日	議会改革特別委員会
		8日	町民と議会との意見交換会(小川総合福祉センター)
		9日	議会改革特別委員会第2小委員会
		10日	教育民生常任委員会(団体との意見交換会)
		12日	宮城県川崎町議会産業建設教育常任委員会視察来町
		24日	議会広報特別委員会(第8回、第78号編集)
		26日	議会改革特別委員会



(有)馬頭観光タクシー

後藤 直美 さん (馬頭)



なかちゃんが聞きました。

Q 後藤さんのご出身は？

A 那珂川町馬頭の出身。馬頭観光タクシーは、私の実家です。

Q 以前はどんな仕事をしていたの？

A 矢板市内の特別養護老人ホームで管理栄養士の仕事をしていたの。

Q 家業を継ぐことになつたきっかけは？

A これまで馬頭観光タクシーを経営してきた父も高齢になって廃業も考えていたみたいなんですけど、町のデマンドタクシーを絶やしてはいけないという思いから、父の後を継いで去年の6月に入社したよ。



タクシードライバーとしても活躍

Q 現在の仕事で困っていることは？

A 会社経営だけでなく自身もドライバーとしてタクシーを運転するけど、18歳の時に町を離れているから、町の様子も昔と変わっていて、今の道が分からないという困った問題はあるかな(笑)。

Q どんな会社にしていきたい？

A デマンドタクシーを利用して買い物をする高齢者のサポートなど、これまで培ってきた管理栄養士のスキルを活かしながら、タクシー事業を通して高齢福祉に貢献出来たらいいな。



なかちゃん号と後藤さん

Q 買い物や通院など、移動手段がない方にとつてデマンドタクシーは欠かせない存在だけど、なかちゃん号はこれからもつと便利になろう？

A 利用者の方からも色々な要望は聞こえてきているから、町の皆さんの期待に応えられるようなデマンドタクシーにしていけたらいいな。



後藤さんの行動力とチャレンジ精神はすごいね。町民の生活や地域の足を支える存在として、これからも頑張ってもらいたい！

議会を傍聴しませんか

皆さんの身近な問題などが審議されます。

あなたも傍聴してみませんか。

次の定例会は、3月4日 開会 (令和7年第2回議会定例会)の予定です。

議場は、庁舎2階です。

ケーブルテレビ(11ch)で議会が生中継されます。

編集後記

「議会だよりなかがわ」を毎号ご覧いただきまして誠にありがとうございます。さて、今号の目玉は、やはり主催者教育の一環として中学生の皆さんに、12月定例会の一般質問を傍聴していただいた記事でしょうか。そしてなんと、その時間帯がまた私の質問時間に当たりました。いつもとは違う緊張感がありました。大変光栄な役回りをさせてもらい感謝しかありません。「中学生の皆さんに私の質問の熱量がほんの少しでも伝わり、行政や議会への関心が高まったらいいなあ。」なんて思っています。

議会だよりは、内容が難しく開いたページもすぐ閉じたくなりませんか？そこを私たち委員は、なるべく難しい表現を避け、わかりやすい紙面づくりに時間を費やします。

「議会だよりなかがわ」は、これから先のページをめくりたくなくなるような、魅力的な広報紙作りを目指してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

議員 矢後 紀夫

●表紙写真 中学生の議会傍聴 (議場)

主催者教育の一環で馬頭中学校と小川中学校の生徒13名が議会の一般質問を傍聴しました。生徒たちは真剣な表情で議員と町執行部のやりとりに耳を傾け、議場内の緊張感と真剣さを肌で感じている様子です。

第7回12月定例会の 議会傍聴者数

3日	7人
4日	27人
5日	2人
第1回1月臨時会の 議会傍聴者数	1人
22日	

